

心理学研究科設立 10 周年にあたって

心理学研究科長 園田直子

2001 年（平成 13 年）に久留米大学大学院心理学研究科が設置されてから今年で 10 年目を迎え、紀要も 10 巻目の発行となった。1990 年代頃から児童生徒の問題行動や家庭における親子関係、職場における適応、老人の生き方の問題などの社会問題への関心が増加してきた。そのような問題に対処するため、高度の知識と経験を有する心の専門家の養成と研究が急務となってきたことから、文学部心理学科を基礎学科とした研究科を作る社会的要求が高まってきたことを受けて、心理学研究科は比較文化研究科から独立したのである。

心理学研究科の現在のスタッフは 11 名で、そのうち後期博士課程の授業担当者は 8 名、論文指導教員は 4 名である。また、修士課程臨床心理学専攻の修了者は 168 名、在学生が 31 名、人間行動心理学専攻の修了者は 28 名、在学生が 8 名、博士後期課程満期退学者は 36 名、学位取得者は 3 名（さらに今年度に 2 名の学位取得者が決定している）、在学生が 10 名にのぼり、総勢のべ 282 名の大学院生が本研究科の教育を受けていることになる。

開設時には、原岡一馬教授（当時）の多大なご尽力があり、その後初代研究科長の津田彰教授、2 代目研究科長の佐藤静一教授、3 代目研究科長の安永悟教授、4 代目研究科長の木藤恒夫教授の努力によって、教育体制、教育内容の改善・質の向上がはかられ、年々研究科の教育は充実してきた。設置当初は九州における私学の臨床心理士を養成する第 1 種の指定大学院は本学のみであったが、現在は九州の私学で 10 校にのぼっている。しかし、本学は臨床心理士指定大学院の中でも先駆けとしての長い実績があり、質の高い教育を行っているという定評を得ている。

また、博士後期課程を有する西日本では数少ない私学の研究科のひとつとして、研究者の育成を行っており、厳しい基準で学位の授与を行ってきた。今年を含め、この 10 年に 5 名の課程博士を出し、学術的な貢献にも寄与してきた。

これまで研究科を牽引してこられた各研究科長、およびきめ細かい指導や心理教育相談センターの教育機能の充実をはかってきたスタッフ一同に感謝したい。これから、学部教育と大学院教育の連携をはかること、さらにこれまで積み上げてきた研究成果、育てた人材を社会に還元し、より一層社会貢献できる研究科としての存在を確立していくことが今後の課題であると考えている。

心理学研究科スタッフ紹介

●スタッフ履歴

スタッフ	久留米大学在職期間	専門領域
船津孝行教授	昭和 63 年 4 月 1 日～平成 7 年 3 月 31 日	産業心理学
村山正治教授	平成 9 年 4 月 1 日～平成 11 年 3 月 31 日	臨床心理学
濱田哲郎教授	平成 3 年 4 月 1 日～平成 10 年 3 月 31 日	人格心理学
原岡一馬教授	平成 12 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日	社会心理学
妙木浩之助教授	平成 13 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日	精神分析学
佐藤静一教授	平成 13 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日	集団力学
山上敏子教授	平成 13 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日	行動療法学

●平成 22 年 7 月 29 日現在，着任順 0

スタッフ	着任	専門領域	担当科目	前期博士課程		後期博士課程	
				授業担当	論文指導	授業担当	論文指導
津田彰教授	昭和 55 年	健康心理学	健康心理学特論	○	○	○	○
安永悟教授	昭和 62 年	教育心理学	教育心理学特論	○	○	○	○
木藤恒夫教授	平成 3 年	認知心理学	認知心理学特論	○	○	○	○
原口雅浩教授	平成 4 年	知覚心理学	知覚心理学特論	○	○ H14～	○ H22～	
園田直子教授	平成 7 年	発達心理学	発達心理学特論	○	○ H14～	○ H14～	○ H22～
岩元澄子教授	平成 16 年	臨床心理学	障害者(児)心理学特論	○	○	○ H19～	
稲谷ふみ枝教授	平成 19 年	臨床心理学	老年心理学特論	○	○	○ H22～	
日高三喜夫准教授	平成 11 年	臨床心理学	異常心理学特論	○	○	○ H16～	
徳田智代准教授	平成 15 年	臨床心理学	家族心理学特論	○	○ H20～		
山本真利子准教授	平成 17 年	臨床心理学	心理療法特論	○	○ H20～		
藤本学准教授	平成 19 年	社会心理学	社会心理学特論	○ H20～	○ H22～		



後列左から，稲谷ふみ枝教授，岩元澄子教授，藤本学准教授，徳田智代准教授，山本真利子准教授，補助員 東妙，補助員 光石路得子
前列左から，日高三喜夫准教授，安永悟教授，木藤恒夫教授，園田直子教授，津田彰教授，原口雅浩教授

心理学研究科 10 年のあゆみ

2001 年 (H 13 年)	4 月	心理学研究科発足 初代研究科長に津田彰教授就任
	4 月	比較文化研究科所属心理教育相談室 (H 9 年設置) を心理学研究科心理教育相談室に改組 室長に日高三喜夫助教授就任
	10 月	第 32 回九州地区社会・教育心理学研究会 (KSEP) 開催 以後, 第 49 回 (2009 年) までに 17 回開催 (原岡・安永)
2002 年 (H 14 年)	3 月	「久留米大学心理学研究」第 1 号発刊 (以降毎年発刊)
	3 月	「久留米大学大学院比較文化研究科心理教育相談室紀要」を「久留米大学大学院心理学研究科心理教育相談室紀要」に名称変更 第 3 巻発行 (以降毎年発刊)
	3 月	Gerald Matthews 教授 (ダンディー大学) を外国人研究者として招聘し, 共同研究「ストレスの状態と心理生物学的ストレス反応: 実験的-フィールド研究」(文部省科学研究費補助金基盤研究 B による助成) (津田)
2003 年 (H 15 年)	3 月	濱田哲郎教授退職
	4 月	徳田智代講師 (当時) 着任
2004 年 (H 16 年)	3 月	「行動はこころの鏡」(五絃舎) 出版 (木藤編著, 原岡, 津田, 佐藤, 安永, 日高, 園田, 原口, 山上, 妙木共著)
	4 月	岩元澄子助教授 (当時) 着任
	4 月	第 2 代研究科長に佐藤静一教授就任
	9 月	Andrew Steptoe 教授 (ユニバーシティカレッジ・ロンドン) を外国人研究協力者として共同研究「教師のワークストレスと健康支援: フィールド介入研究」(文部科学省科学研究費補助金基盤研究 B による助成) (津田)
	11 月	日本協同教育学会第 1 回全国大会開催 (大会長, 安永)
2005 年 (H 17 年)	3 月	原岡一馬教授退職
	4 月	山本眞利子講師 (当時) 着任
2006 年 (H 18 年)	9 月	日本心理学会第 70 回大会 (九州大学) に招聘された Peter M. Litchfield 氏 (Better Physiology 研究所所長, Boulder, 米国) の特別講義 (久留米大学) ならびに共同研究 (津田)
	10~11 月	Richard M. Sorrentino 教授 (西オンタリオ大学) を外国人研究者として招聘し, 共同研究を行う (安永)
	10 月	村田伸氏 博士 (心理学) 学位授与 (甲第 1 号) (主査 津田, 副査 辻丸・山上)
	10 月	稲谷ふみ枝氏 博士 (心理学) 学位授与 (甲第 2 号) (主査 津田, 副査 佐藤・辻丸)
	12 月	James O. Prochaska 教授 (ロードアイランド大学) を外国人研究者として招聘し, 特別講義ならびに共同研究「多理論統合モデルを用いたストレスマネジメントのランダム化比較試験」(日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 A による助成) (津田)
2007 年 (H 19 年)	3 月	山上敏子教授退職 佐藤静一教授退職
	4 月	稲谷ふみ枝教授着任 藤本学講師 (当時) 着任
	4 月	第 3 代研究科長に安永悟教授就任

	6~8月	Nina Grant 氏 (Ph D candidate student) (ユニバーシティカレッジ・ロンドン) を客員研究員として共同研究「Health and Well-being: Field-experimental approach」(日本学術振興会海外招聘研究員助成による)(津田)
	7月	日本ストレスマネジメント学会第6回学術大会開催(大会長, 津田)
	7月	日本ストレスマネジメント学会と日本トラウマティック・ストレス学会との共催で, Larry Beutler 教授(バシフィック心理職専門大学院)を講師としてえーるびあで講演会を開催(津田)
	9月	社会人推薦入試制度の導入開始
2008年(H20年)	2月	第9回日本健康支援学会学術集会開催(大会長, 津田)
	11月	Gerald Matthews 教授(シンシナティ大学)を外国人研究者として招聘し, 共同研究「Individual differences to Stress Vulnerability」(日本学術振興会海外交流協定国助成による)(津田)
2009年(H21年)	1月	1000号館完成。心理教育相談室を心理教育相談センターに, また室長をセンター長に改名
	2月	医学部精神神経科と共催で Marlene Young 氏を講師として犯罪被害者支援国際ワークショップを開催(稲谷)
	4月	第4代研究科長に木藤恒夫教授就任
	5月	上田幸彦氏 博士(心理学)学位授与(甲第3号)(主査 津田, 副査 安永・稲谷)
	12月	第11回日本子ども健康科学学会学術集会開催(大会長, 津田)
2010年(H22年)	3月	「久留米大学大学院心理学研究科心理相談室紀要」を「久留米大学大学院心理学研究科心理教育相談センター紀要」に名称変更
	4月	第5代研究科長に園田直子教授就任
	5月	九州バリデーション研究会・研修会発足式開催(稲谷)
	8月	Uichol Kim 教授(Inha 大学, 韓国)を外国連携研究者として共同研究「心理的ウェルビーイングのポジティブ健康心理学的研究」(日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究Bによる助成)(津田)
	11月	比較文化研究所に心理教育部会発足(部会長, 園田)
2011年(H23年)	1月	日本トラウマティック・ストレス学会を医学部精神神経科との共催で開催(徳田)
	3月	米川和雄氏 博士(心理学)学位授与(甲第4号)(主査 津田, 副査 安永・辻丸)
	3月	堀内聡氏 博士(心理学)学位授与(甲第5号)(主査 津田, 副査 木藤・辻丸)
	3月	心理学研究科10周年記念祝賀会開催
	5~6月	公開講座「心の時代に生かす心理学」・市民対象の「こころの相談会」開催予定
	8月	日本初年次教育学会第4回全国大会開催予定(大会長, 安永)
	10月	ストレングスアプローチ研修会開催予定(山本)
	12月	第18回日本行動医学会学術総会開催予定(大会長, 津田)